

# 春田がいく!



## 活動日誌

### PHP地域経営塾「教育政策は誰が担うのか」

開催日:平成24年8月17日

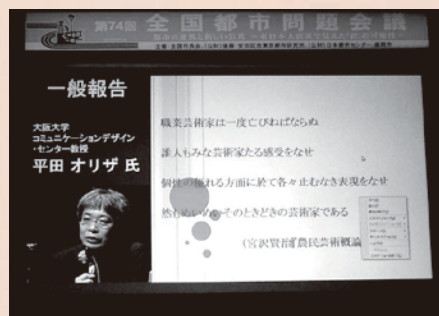
講師:亀田徹(PHP研究所首席研究員)、南学(神奈川大学人間科学部特任教授)

「首長と教育委員会、議会との関係、県の教育委員会は必要なのか?」等の内容を、過去の歴史的な変遷や現在の構造など、基礎から学びました。政治的中立の確保や、教育の継続性・一貫性の確保を行い、広く地域住民の意向を反映させることの重要性が求められます。「子どもたちにとって必要なことは何か」という視点で政策を考えることが今こそ大切です。現在の制度が形骸化しないように、市長と教育委員会との懇談会を充実することや、今後「市教委と県教委のあり方、服務権限と任命権が別であること」に対する問題を解決するために、権限と責任、そして財源を中核市に移譲することを代表質問につなげました。

### 第74回全国都市問題会議から

### 「都市の連携と新しい公共」東日本大震災で見えた「絆」の可能性

開催日:平成24年10月11日、12日(岩手県民会館)



特に印象的だったのが、「文化による地域復興をめざして」と題した、平田オリザ氏(劇作家、大阪大学教授)による講演でした。「壊滅的な打撃を受けた女川で、流された獅子舞の復活を遂げたところから高台への移転の合意ができていく」という例を紹介されながら「文化活動の持つ社会包摂の力が、震災から立ち上がるうえでも大きな力になっている。今日の日本社会が、かつての地縁・血縁の社会は機能しなくなり、企業社会も希薄化し「無縁社会」という言葉に象徴されるような状態となっている中、文化活動によって新たなつながりを取り戻すことができるとし、スポーツなども含めた広い意味での『文化』の持つ力を語られました。これからの地域にとって重要なのは、「文化の自己決定能力・ソフトの地産地消」という概念である。農業や漁業という一次産業に付加価値をつける、産業の高度化・六次産業化することや、観光振興のためにも、「文化力」を備えた人の存在であることを学びました。

### 「ダイアログ Bar 高松! ~地域の未来を創る対話の場~」

NPO法人ソーシャルベンチャーズ四国が平成24年度高松市協働企画提案事業として「ダイアログ Bar 高松」を開催しています。地域に対する想いや考え、また問題について、ゲストを交え、世代を超えて話し合う場が「ダイアログ Bar 高松」です。これまで『コミュニティ』~未来をつくるための協力と協働~、『仕事』~未来へ向けて日本人の働き方を再考する~、『社会環境・自然環境』~人間らしい生き方を目指して海士町で起業しました~と題して3回が開催され、次回は『生活』~社会で担う子育て~とのテーマで、丑田 香澄氏(一般社団法人ドゥーラ協会 代表理事)により、妊娠・出産・子育てををする女性を地域社会で支える人創りについての報告を受け、皆で語り合います。



興味のある方はこちらから → <http://www.sv-shikoku.com/>

相談やお気づきの点がありましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。党員に限らず、どなたでも結構です。

- 日々の活動は「春田のブログ」<http://haruta.jp/blog>をご覧ください。
- facebookは <http://www.facebook.com/keishi.haruta>
- つぶやきは <http://twitter.com/KHaruta>

### 春一番 編集後記

昨年末の衆議院選挙で劇的な政権交代が果たされ、世界でもリーダーが交代するなど大きなターニングポイントを超えて、巳年の新年を迎えました。「脱皮する」とも「殻を破る」とも言われる巳年、これまでの延長ではなく、全く新しい姿で羽ばたく一年にしたいと決意をしています。そのためには、「あれが悪い、ここが悪い」と否定するだけではなく、前向き(ポジティブ)で、皆が希望を持つ代替案を示す、「ダメ出し」から「ポジ出し」を常に行えるように自らが率先して変わります。そして、その輪をひとつづつ広げる対話の場所を重ねる一年にしたいと思います。本年も宜しくお願いします。

## 活動実績

平成24年4月~9月

4月6日	弦打保育所入園式	参列
10日	勝賀中学入学式	参列
11日	弦打小学校入学式	参列
22日	「地震考古学からみた巨大地震」講演会	参加
5月16日	臨時議会	
17日	(特) ソーシャルベンチャー四国総会	出席
19日	(特) 子ども防止ネットワークかがわ総会	出席
21日	建設水道常任委員会	
25日	木太小学校・交通安全	視察
26~27日	フューチャーセンター in 四国	参加
6月1日	新病院等整備特別委員会	出席
2日	水道週間・夕暮れコンサート	参加
5日	経済環境調査会	傍聴
10日	瀬戸内生活工芸祭・第2回語りつく会	参加
11~25日	高松市6月定例議会	
17日	ひきこもり講演会	参加
24日	高松市総合防災訓練	参加
7月12日	山本博司参議院議員と防災対策	視察
14日	東北OM勉強会	参加
17日	会派視察・佐賀市/バイオマスタウン	
18日	会派視察・長崎市/空き家対策	
19日	会派視察・福岡市/ソーシャルワーカーモデル事業	
31日	瀬戸・高松広域定住自立圏共生ビジョン懇談会	参加
8月1日	四番丁スグエア開所	参加
5日	高松市事業仕分け	参加、「ほめ達」講演会
14日	高松まつり総踊り	参加
17日	PHP研修会「教育行政は誰が担うのか?」	参加
19日	うどん県書道パフォーマンス	参加
20~21日	自治政策講座	参加
22日	建設水道常任委員会	出席
9月4日	議会運営委員会	
7~24日	高松市第4回(9月)定例議会	
17日	敬老会	参列
30日	映画100年の時計試写会	参加
10月7日	ワークプラザたんぼほ祭り	参加
10日	戦没者慰霊祭	参列
11~12日	全国都市問題会議 in 盛岡	参加
12日	第2回ダイヤログバー	参加
21日	高松秋の祭り・仏生山大名行列	参加
22日	山本博司参議院議員と県女性子ども相談室	視察
28日	高松市消防連合演習	参加
11月11日	勝賀中学校創立50周年記念式典	参加
12~13日	佐世保・福岡市/建設水道常任委員会	視察
17日	子ども条例シンポジウム	参加
23日	瀬戸内生活工芸祭	ボランティア
24日	第3回ダイヤログバー	参加
12月9日	弦打地区自主防災	参加
5~21日	高松市第5回(12月)定例議会	

### 市民相談件数 84件 / 相談累計 646件

経費の区分	金額
1 研究研修費	382,688
2 調査旅費	0
3 資料作成費	15,296
4 資料購入費	95,282
5 広報費	199,500
6 広聴費	0
7 人件費	0
8 事務費	0
9 その他	0
合計	692,766 円

平成24年4月~12月  
高松市の政務調査費は議員一人当たり年間120万円の予算を計上しています。平成20年度からは政務調査費用は情報公開となり、全議員が1円から領収書を添付して報告することになっています。残額は翌年度5月に返納することになっています。

### 会計報告 (政務調査費)

平成24年4月~12月

高松市の政務調査費は議員一人当たり年間120万円の予算を計上しています。平成20年度からは政務調査費用は情報公開となり、全議員が1円から領収書を添付して報告することになっています。残額は翌年度5月に返納することになっています。

携帯で読むにはこちら →

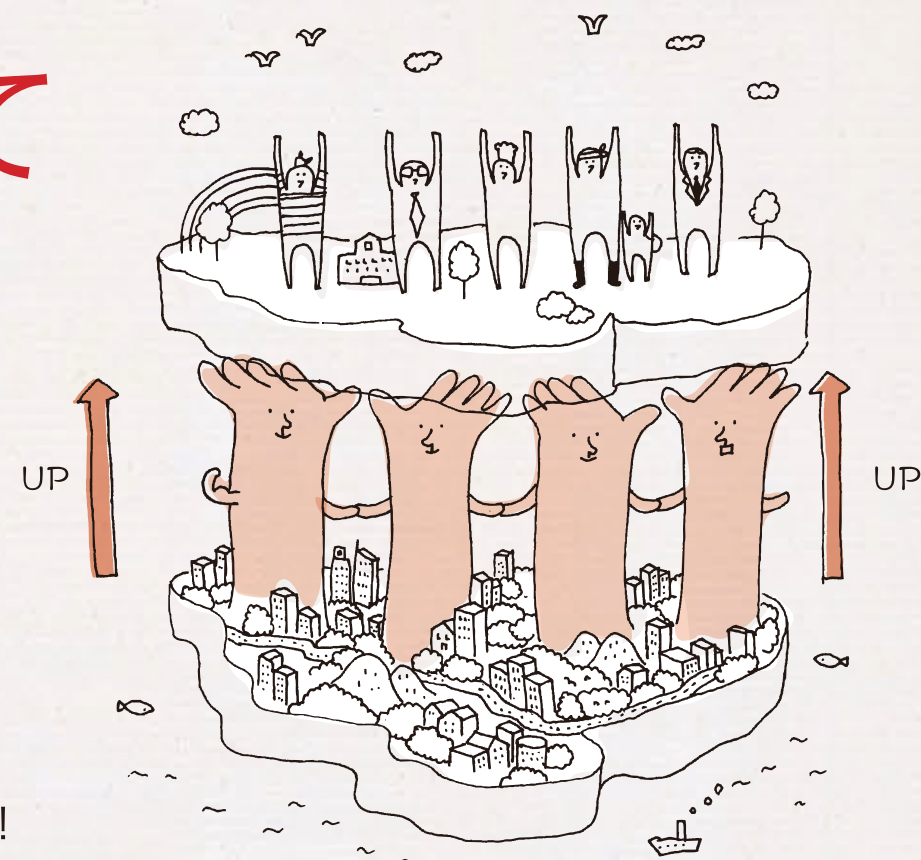


### 春風 PRESS VOL.09

発行者: 高松市議会議員 春田敬司  
発行日: 2013年1月  
連絡先: 〒761-8013  
高松市香西東町14番地8  
TEL: 087-842-5730

# Q 新年を迎えて何を為す?

A 長引く不景気から脱出するためには不安を煽り、足を引っ張り合うのではなく希望を指し示すことあるべき姿を語り合うことそして、大切に想うことをやりつづけること!



## 高松市議会議員「春田敬司」と高松の明日を考える。VOL.09 2013.January

# 春風 PRESS

生活者の一番近くで、動く、働く。

### 仕事を創る!

経済の由来である「経世済民」とは中国の古典に登場する語で、「世を経(おさめ)民を済(すくう)」の意味で、本来はより広く政治・統治・行政全般を指示する語でした。しかしいつしか、英語のeconomy・「理財」の意味合いが強くなってしまいました。高松市は創造都市推進局を整備し、「文化芸術などの持つ創造性を生かしながら、農業なども含めた産業振興や地域活性化、コンパクトで美しいまちづくりなど、個々の取組の調和のとれた推進を行い、都市的利便性と潤いのある海や田園の穏やかさが、

共に享受でき、人々が幸せを感じられる、人間中心の都市」を目指しています。これから政権交代により、公明党が指し示す「防災・減災ニューディール」が実施され、仕事が生まれます。「理財」に留まることなく、そこに住む人のための仕事を創ります!

### 支えあう地域を創る!

財源が厳しいので「自助・共助・公助」ではありません。声の大きい人だけいい思いをするのではなく、多くの人が納得できるように「依存から脱却し自立すること、その上に立って相互依存する」ことが強く求められます。同じ依存でも、自立が入ることで大きくその意味が変わります。高松市の地域包括支援センター(あんしんサポート)を機軸にした「地域の見守り体制整備」を行うこと、今、地域に居る保険委員、民生委員や児童委員、社会福祉協議会の方々などの力を最大限に発揮することで、お互いに支えあう地域を創ります。

### 次世代の希望を創る!

「自分達が為したことはないのに、ロスト・ジェネレーション(失われた世代)と言われるのは心外である!」地域興しを行ってきた30代の青年との対話の中でお聞きした怒りの声でした。次代を担う若者世代には、就職・結婚・心のトラブル等、幅広い多くの問題を抱えている上、いつの間にかその両肩に大きな行政の債務が押し掛かっています。これらの問題を解決し、若者が将来に希望が持てる社会を構築するために「総合的に支援する体制整備」と共に、一緒に語り合いながら創り上げる場所を作って参ります。そして、春田が大切に想う、小さな出来事をひとつひとつ、一緒に汗をかきながら積み重ねて参ります。

### 市民のための議会を創る!

日経新聞に、平成24年度全国議会改革度ランキングで高松市が県庁所在地の市の中でワースト2位との不名誉な公表がありました。道州制などこれから地域分権が推し進められる中、私たちの暮らしに密着した基礎自治体である市の役割が大きく、「議会」が重要になってきます。市民のための議会改革を行うために、まずは「議員同士で議論を尽くす」という基本を今年こそは実現します。そして市民の皆様が開かれた議会を創ります。

Profile 春田 敬司 HARUTA KEISHI

昭和42年2月23日、兵庫県神戸市生まれ。国立高松工業高等学校機械工学科卒。(有)ジャストブレイン代表取締役(経営コンサルタント)。平成23年4月高松市議会議員2期目当選。妻と高校1年生、中学2年生、愛犬1匹の5人家族。愛読書は「三国志」、「永遠の都」、ポリシーは「認識せずして、評価せず」。

# 地域の 見守り体制強化 に必要なことは？



春田  
チェック!

## 高松市社会福祉協議会は 民間事業者？!

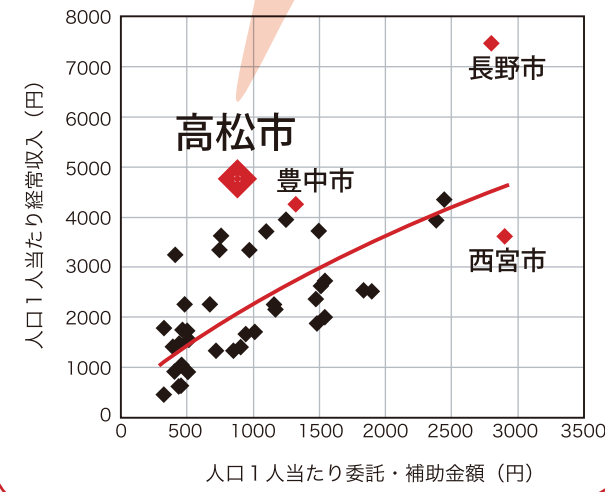
高松市社会福祉協議会(以下「社協」)の経常収入の総額は20億3145万8千円で、長野市について2番目。人口1人当たりでみると4,837円と2番目に高く、中核市の平均2,457円に比べて2倍の金額を稼いでいます。市からの補助金と委託金の合計額は、経常収入に占める割合を分析してみると、18.3%と姫路市、高知市について3番目に低く、平均の46.8%から見てもかなり低い割合です。

一方、市からの補助金と委託金の合計額は約3億7千万円であり、これを人口1人当たり金額と比較すると883円となります。これらのことから、本市の社協は、市からの補助金や委託金への依存割合が低く、介護保険事業などの事業収入がかなり多い事業体であることが見て取れます。

この背景には、過去に議会から行政依存を厳しく指摘されたことや、平成14年から始まった介護保険制度における事業拡大が考えられます。しかし、「社会福祉法」の本来の主旨からみて、本市の社協の姿は適切だといえるのでしょうか？

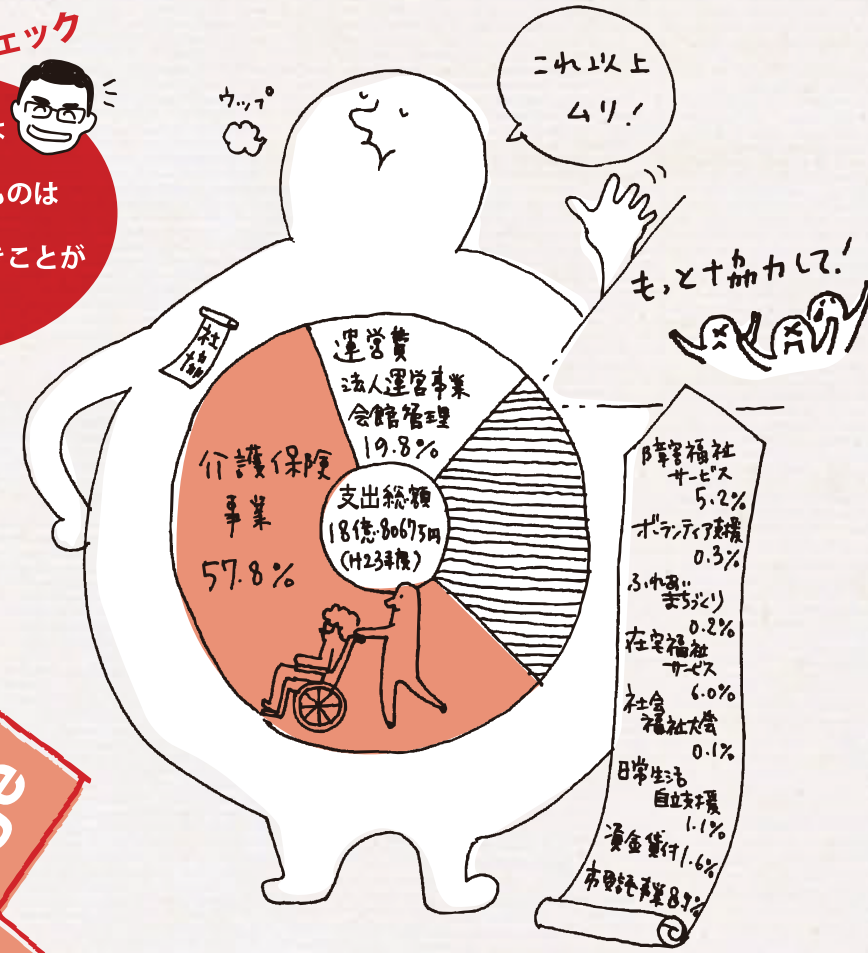
春田は、これからの社会は「地域で支えあう」ことが大切であり、その大きな役割を担っていくのが社協だと考えています。地域福祉が充実している先進事例を見ると、そこには必ず市や町の社協の存在があります。高松市も豊中市や福岡市などが実施している「コミュニティソーシャルワーカーモデル事業」を導入するなど、今ある資源(地域の民生委員さんや地区社協さん達)を支え、最大限に力を発揮することに取り組む必要があると考えています。

- 経常収入の総額 **全国2位**  
20億3145万8千円  
人口1人当たり4,837円
- 市からの補助金・委託金の総額  
約3億7000万円  
人口1人当たり883円



中核市における社会福祉協議会の関わり (H24年度調べ)

チェック  
支出の約6割は  
介護保険事業。  
事業化できるものは  
民間に任せて。  
もっとやるべきことが  
あるはず?!



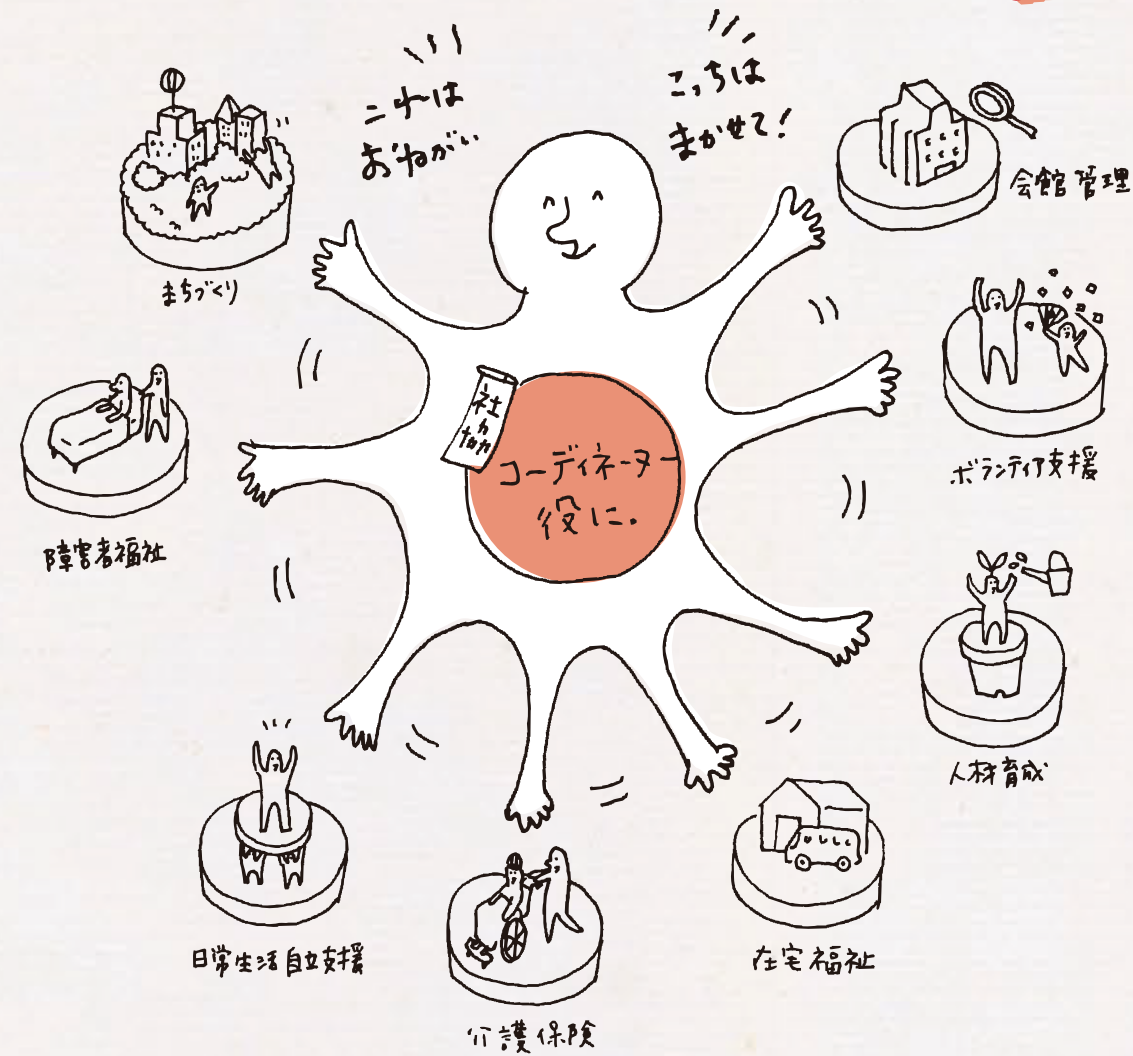
Change

## 社会福祉協議会とは？

社会福祉事業法(現在の「社会福祉法」)に基づき設置された、**民間の社会福祉活動を推進することを目的とした非営利の民間組織**。都道府県や市区町村単位で、住民や民生委員・児童委員、社会福祉関係者、保健・医療などの関係機関と協力し、各種福祉サービス、相談活動、ボランティア支援、共同募金運動への協力などを行っている。

### 視察してきました! 地域福祉の コーディネーター事業 (福岡市)

福岡市では、介護保険制度の創設以降、増大する介護需要に対応するべく、地域の「支え合い活動」の促進を目的に、平成23年度から「地域福祉ソーシャルワーカーモデル事業」を導入しています。これは、コーディネーターとしてソーシャルワーカーを配置し、地域が抱える課題を把握、民生委員や自治会等と連携して問題解決を支援しようというものです。もともと社会福祉協議会にも校区担当制度はありましたが、十分機能しておらず、市が積極的に関わることで、現場の負担軽減をはかり、課題改善に務めています。



## 高松市のまちの通信簿

高松市では、これまで、構想日本の事業仕分けや外部監査委員による監査など、計画した事業が適切か否かを判断する取り組みを行ってきました。春田がこれまで繰り返し質問してきた「高松版ベストヴァリュ」の公表もようやく実現し、ホームページでも701件に及ぶ事務事業評価や施策評価などがすべて見られるようになりました。限られた財源で持続可能なまちづくりを進めるための市政運営を、総合的に判断できる体制が整ったのです。市の事業は広範で多岐にわたっています。一つひとつの事業を見ることも大事ですが、木々の枝葉だけでなく、森を見て大きな戦略を判断することも重要です。「着眼大局、着手小局」が必要なのです。

- そこで春田は、代表質問で、以下の改善点を挙げました。
- ①行政評価が内部評価のみになっており、市民からの視点で反映されていないこと  
→行政評価の導入目的の一つが「市民への説明責任の全う」なら、市民への公表を前提としたとりまとめが必要!
  - ②「市民満足度調査」のあり方と、行政評価への反映について  
→満足度を表わす数字の相対化、改善のための成果指標が妥当かどうかの検証、不満足要因のヒアリング等、工夫が必要!

高松市の行政評価はホームページから見られます  
<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/18503.html>

## 若者支援体制の整備

将来に希望が持てる社会にするためには、若者世代が抱える課題に関心を向けることが欠かせません。超少子高齢化社会で重要性が一層増している社会保障制度ですが、その根幹は「世代間の支えあい」です。急増する社会保障費に、支え手の若者は不信感を募らせ、制度の意義を考える余裕すらありません。

若者世代を社会的弱者にしないためには、就職・結婚・心のトラブル等、多面的な対応が必要です。従来の「各関連分野の緊密な連携による支援」から一歩進んで、例えば「若者支援室」の設置など、総合支援体制の整備が必要と春田は考えます。「それは県の役割、ハローワークの役割、 marriage で、保険センターで」などと言っている場合ではありません!



## 第2回高松市議会(定例会)の一般質問内容 (平成24年9月)

### 一般質問の要旨

1. コミュニティ施策の推進について
2. 地域見守り体制の整備について
  - ・市社協の役割への認識と現状との乖離について
  - ・コミュニティソーシャルワーカーモデル事業の実施について
3. 総合センターの所管区域を他の計画区域と統一する考え
4. 観光推進策について
  - ・着地型旅行推進体制の強化
  - ・島嶼部に無料無線LANスポットを整備

### 実現します! 島嶼部の無料無線 LAN

今やツイッターやフェイスブックなどのSNSによる情報発信は大きな影響力を発揮しています。また、iPhoneをはじめとするスマートフォンによる情報の収集や発信は若い世代だけではなく大きなうねりとなって時代を動かしつつあります。そんな中、「瀬戸内国際芸術祭2010」の時に残念なことに、島では電波が通じずiPhoneは使用できず多くの不満の声が寄せられておりました。この問題を解決できる「無料無線LAN」は、市民や観光客の利便性を高めるという目的の他、災害時の情報確保という側面もあります。

春田は、課題となっている島嶼部、とりわけ来春の「瀬戸内国際芸術祭2013」までに、男木島の交流館、女木島の鬼の館、大島の青松園に、市が無料無線LANを整備し、看板やステッカー、マップやインターネットでの告知を行う考えを質していました。この本市の意向を受け、県が芸術祭実行委員会として予算化し、無料無線LANの整備を行うこととなりました!

## 第5回高松市議会(定例会)での代表質問内容(平成24年12月)

### 一般質問の要旨

1. 行政評価とまちづくり戦略計画のあり方について
  - ・運用可能額を明確にして、まちづくり戦略計画を立てる
  - ・行政評価に市民の視点を加味する
  - ・産業、雇用を創出する予算を拡大する
2. 人財管理体制の整備について
  - ・時間外手当の削減など
3. 情報システム最適化計画における自治体クラウドへの基本的な考え
4. 多核連携型コンパクト・エコシティのまちづくりについて
  - ・都市低炭素化促進法を活用したまちづくりへの基本的な考え
  - ・新病院開院までに環状・連携軸の公共交通網を整備する考え
5. 若者支援体制の整備について
  - ・若者支援の必要性と総合支援体制整備の考え
  - ・今後の、ひきこもり対策への取り組み
6. 地域の子育て支援環境の充実について
  - ・子ども子育て関連3法への対応
  - ・こども未来館(仮称)でのキャリア教育に取り組む考え
7. 地域が支える教育環境の整備について
  - ・市長と教育委員会との懇談会の充実
  - ・教育の責任と権限の一元化に対する考え
  - ・「みねやま学級」の分校化への考え